

議会 だより



小豆島町

No. 34

平成26年11月1日 発行



動物ひっぱりっこ つなひき

幼稚園・保育所・こども園合同ミニ運動会 (旧福田小体育館)

- 審議議案
7月臨時会・9月定例会について……………2
- 一般質問
11名の議員が質問……………3~8
- 中学生議会
14名の中学生議員が質問……………9
- 住民の声・まちの力……………10

7月 臨時会



赤谷勝之氏（二面）

人権擁護委員再任に同意

第2回臨時会は7月30日に開催され、工事請負契約（安田ポンプ場等）・一般会計補正予算2,360万円（主な補正は橋梁補修事業1,170万円）などの4議案と人事案件1件が提出され、それぞれ原案のとおり承認・可決されました。

人権擁護委員の赤谷勝之氏は12月31日をもって任期満了となりますが、同氏を再任したいとの議案が出され、再任に同意しました。

9月 定例会

第3回定例会が9月17日、18日に開催され、平成26年度の補正予算議案が6件、町税条例の一部改正などの6議案を委員会付託、条例案5件、契約案件等が7件、報告案件が5件など合計31議案が提案されました。それぞれ原案どおり可決、請願1件を否決しました。また、平成25年度の決算認定議案は閉会中に特別委員会で審議されることとなりました。

一般会計

追加補正予算額 6億8,640万1千円

審議した主な議案

補正予算

一般会計（第3号）

追加補正予算額は6億8,640万1千円と大きな額となっていますが、このうち

3億8千万円を減債基金（町の借金の返済の増加に備えるために積み立てる基金）に積み立てます。

その他の主な内容は次のとおりです。

総務費関係

社会保障・税番号制度システム整備委託料等
290万7千円

マイナンバー法に対応するための住基・税関係の電算システム改修委託料です。

民生費関係

各特別会計繰出金

352万3千円

一般会計委託料

268万9千円

マイナンバー法に対応するための電算システム改修に対する繰出金と委託料です。

衛生費関係

予防接種業務委託料

344万3千円

10月から接種の高齢者肺炎球菌ワクチン・乳幼児水疱瘡ワクチンです。

不法投棄監視カメラ

107万2千円

購入費

質疑応答

Q購入台数と設置場所（設置要件）はどこか。

A3台。場所は吉野・東浦（吉田）・1か所は未定である。

常態的に不法投棄される場所からまず設置し、機動的に設置場所は変えながら、今後は効果的な監視設置を検討する。



現在設置の不法投棄監視カメラ

小豆医療組合負担金

2億1,142万4千円

新病院（小豆島中央病院）工事費増高による負担金です。

商工費

吉本新喜劇公演実行委員会補助金

100万円

11/2日・3月に公演される、吉本新喜劇の小豆島公演に対する補助金です。

質疑応答

Q小豆島公演の経緯は。

A瀬戸芸でスターアンガー等の作品を手掛けた、現代美術作家のヤノベケンジ氏と吉本新喜劇が共同制作し「小豆島」をテーマにしたオリジナルの新喜劇を公演される。



教育費

教材用備品

208万5千円

オリーブを活用した木育授業の一環として、間伐材等で制作した木の玩具や、運動能力向上のための運動用具を購入し、町内の幼保に整備します。

災害復旧費

4,067万4千円

台風11号により被災した施設復旧費です。

環境衛生組合の解散

し尿処理場（みさき園）の大規模改修により、小豆島町から排出される全てのし尿及び浄化槽汚泥の処理が可能となったため、これまで共同処理を行っていた土庄町小豆島町環境衛生組合から脱退しました。平成27年3月31日をもって、同組合を解散します。

新規条例

小豆島町離島振興対策実施地域における町税の特別措置条例について

小豆島町において、製造業・旅館業・情報サービス業等の設備を、新設・増設により取得した者について、固定資産税の課税を3過年度、免除することにより、離島地域の産業の振興を図ります。

請願

「解釈改憲による集団的自衛権行使を容認する閣議決定の撤回を求める意見書の提出に関する請願」

提出者
小豆島九条の会
代表 新岡豊子
紹介議員

鍋谷真由美議員
総務建設常任委員会に付託し、審査した結果委員会及び本会議ともに「否決」となりました。

報告

財政健全化判断比率

6年連続で改善

財政健全化法に基づく健全化判断比率の4指標と、簡易水道事業・上水道事業・介護老人保健施設事業、病院事業会計での資金不足比率が公開され、いずれの数値も問題ないと報告がされました。

現在の小豆島町の財政状況は「健全」ですが、今後、既に着手している新病院建設や消防舎建て替え、し尿処理施設（みさき園）の大規模改修などに加え、内海病院や小豆島高校の跡地利用、内海エリアの保育所、幼稚園の再編整備など、大きな財政支出が予想される事業が続き、樂觀できない状況にあります。

(表1)

健全化判断比率	平成25年度	H24	H23	H22	H21	早期健全化基準
実質赤字比率	—%	—%	—%	—%	—%	14.66%
連結実質赤字比率	—%	—%	—%	—%	—%	19.66%
実質公債費比率	5.8%	7.6%	7.6%	9.5%	11.8%	25.0%
将来負担比率	—%	—%	—%	—%	—%	350.0%

※赤字(資金不足)額がないものは該当なしのため「—」



浜口 勇 議員

夜中であっても雨量情報を

町「状況に応じた的確に判断し対応する」



西村(日方)地区 51年災害

質問 夜中に発生が予想される災害の避難情報を深夜であっても刻々と家庭の受信機で雨量の予想や降雨量を伝えられないか。
小豆島町は昭和49年に29名、2年後の昭和51年には39名の死者を出した土石流災害があった。8月に広島市内での土石流による死者は74名になった。夜中の情報不足による逃げ遅れが原因であった。

なっている。しかし、いつ大きな災害が起きるかもしれないので、万全の対応が今後も必要である。近年、短期間に大量の降雨が全国各地で記録されており、小豆島町でも災害の危険性から逃れられないこともあり得る。したがって、的確に避難勧告や避難指示が必要である。

夜中の避難には危険が伴うので暗くなる前の避難ができる対応が基本である。町内には県が管轄する雨量計が14カ所設置されており、雨量情報はリアルタイムで小豆島町も把握している。

気象台との連携を密にして住民には的確できめ細かい情報を防災行政無線で伝達したい。基本は状況に応じた的確に判断し、対応することである。

答弁 昭和49年、51年の災害を教訓にして多くの砂防ダムが整備され、河川改修も行われ比較的災害に強い町に

一般質問



森 崇 議員

自然災害対策と自治消防団の強化について

町「災害に対し、共助の充実に向け、さらなる支援を検討したい」

地区の消火栓や消火器の点検をしたが朽ちて使えない。初期消火といわれても何もできない。町の補助が必要ではないか。

答弁 役場のスタッフにも率先して自治消防団に参加するようにしたい。町として平成25年度から自主的な防災訓練に対し、支援を始めたところである。共助の充実に向け、さらなる支援を検討したい。

広島県の災害で国から危険箇所等を周知するよう指導があった。消防力のきめ細かな対応を考えている。

紅雲亭線オフシーズンのバス確保について

町「通年運行できるように検討したい」

質問 紅雲亭行き路線バスがオフシーズンに走っていない。観光小豆島で宣伝しているのに矛盾している。

ジャンボフェリーもロープウェイも年中運行している。県では観光路線バスはここだけだ。関連業者の協力や県の支援も得られるのではないか。

答弁 通年運行できるように検討したい。県の協議会で認められた場合、2年間に限り補助対象となる。町とバス事業者と観光関連企業の3者が一体となって検討していきたい。



紅雲亭行きバス（シーズン）



大川 新也 議員

質問 過去の質問で前向きな答弁であったが、その後は。

①平成24年9月、旧高橋旅館の焼跡地問題に関して、年明けにも適正管理の条例を作成・提案するとの事だったが、未だに何も提示されていないが。

②平成24年12月のジェネリック医薬品のシェアに関して、各方面に協力依頼して国保財政の健全化をめざす。

③平成25年3月、寒霞溪の再生、保全に関して、80周年に際し町として全力で取り組むとあったが具体的に。

答弁 ①現在検討中であり、先例、国の動きも考慮し早期に提示する。大川 「それでは地元

あれはどうなった

町「①空き家対策の条例②ジェネリック医薬品の普及③寒霞溪の再生、保全」

の不安は解消できない 尽力してほしい」

②平成26年6月現在のシェアは38・9%で利用促進の効果は出ている。

大川「普及率上昇は評価できる」

③今後、秋のシーズンに向け各種、各地で展示会・シンポジウム等を開催予定である。

大川「ソフト面もいいが、ハード面にもっと

安全・安心のまちづくりは即対応を

町「自然条件、災害要因、緊急性を考慮し、順番に実施したい」

質問 台風11号にて神懸通後山地区で農免道路が冠水・越水し直下の住民は避難した。平成23年10月に道路改修を要望しているが即対応を。

答弁 費用面、緊急順位等にて即対応できていない。指摘の箇所は排水路に枯れ葉等が堆積して排水管路が詰まり機能を失っている。今後新たな対策を検討する。



旧高橋旅館 焼跡（神懸通）



谷 康男 議員

小豆島全体の交通体系について

町「新しい公共交通体系の合意形成をはかる」

質問 小豆島の陸上公共交通については、現在、南周り福田線、北回り福田線、および坂手線の3路線により幹線の維持がなされている。

答弁 まずは、島民の皆さんが利用しやすい運賃の設定、どこから新しい病院に行っても低料金で病院に行けるような運賃の設定ができないか考えている。

2年後の平成28年4月には、小豆島中央病院の開院と、第3回瀬戸内国際芸術祭の開催、その1年後平成29年には、東蒲生に新設高校の開校も予定されている。

人々の動きが大きく変わることが予想されるなか、町長はさきの

議会で公共交通の抜本的見直しについて今年度中に方向を出したいと答弁しているが、町として現在の検討状況は。

そのため私（町長）をリーダーとする対策チームを設置して、運賃の値下げや路線の再編等の検討をすすめている。

その中で、町議会をはじめ、利用者の意向、各種団体の意見を集約

し、土庄町とも協議をして、新しい小豆島の公共交通体系についての合意形成をはかって行く。



通学・通院に利用される路線バス



安井 信之 議員

合併特例後の行政運営について

町「中・長期の財政見通しを発表したい」

質問 合併特例後の行政運営については。

答弁 合併算定特例は、基礎自治体である市町村の行政サービスの維持と、行財政基盤の強化を図るという観点から構築された。

施設整備は、合併以降、漁港や港湾の高潮対策、学校施設の耐震化など、住民生活に密接なものから計画的に整備を進めきた。

また、公立病院の再編や新しい小豆島中学校の設置、各小学校、幼稚園施設の維持など、未来の小豆島の姿を見据え、それぞれの分野で選択と集中を

行っている。

実際のところ、町の財源のうち自主財源は約3割にすぎず、約7割が国などへの依存財源となっており、国などの財政支援が手厚い今、必要な施設整備を実施し、完了する必要

がある。

合併特例債は、適用期限が5年間延長され、平成32年度までの発行が可能となっている。住民生活に密接な社会資本の整備は、合併特例債の適用期限までにおもだった整備は終えたいと考えている。

今年度の予算は、新病院建設、消防庁舎整備、し尿処理施設みさき園の改修など、大きな社会資本整備と、小

豆島の未来のために集中的に必要な施策を行うために、最大規模となっている。

10月にはシミュレーションを示し、中・長期の財政見通しを発表したい。



施設整備されるエリエス荘（坂手）



柴田 初子 議員

有害鳥獣対策強化事業について

町「狩猟免許取得と防護柵助成事業を実施」

質問 強化対策事業のモデル地区による有害鳥獣対策の実施の実態と、狩猟免許取得の状況、新規の防護柵助成の当初の見積りと、現時点での申し込み件数は。

答弁 モデル地区では、地域単位でまず共通の問題意識をもち、次に緩衝帯の整備、防護柵の設置を考え、後の管理、見回りを行うなどの自衛体制をすること。

平成25年度は有害鳥獣対策の勉強会を9地区が開催し、地域全体を囲う防護柵は3地区が整備予定で、計画中が2地区ある。

狩猟免許取得者は前年より18名増の65名。この内、猟銃免許取得



危険ドラッグ乱用防止について

町「薬物乱用防止に関する啓発活動・指導を行う」

質問 軽い好奇心から安易に手を出さないように、薬物の恐ろしさについて町の取り組みは。

答弁 小豆地区薬物乱用対策連絡協議会が中心となり、啓発活動・



鳥獣害に対する防護柵(室生)

者は25名で捕獲処理「サシトメ」をする人している。

防護柵助成についての当初見積りは20件程度で100万円を予算化。現在の申込は8件。締切りは9月末までだが、相談があればお応えしていきたい。

薬物乱用防止に関する指導、ケシパトロールの巡回、除去などに取り組んでいる。中学・高校生には、保健体育の授業で、学ぶ機会がある。毎年街頭キャンペーンを実施している。今年10月に実施予定です。

高齢者の生活支援について

町「地域包括支援センターで軽度の家事支援事業をしている」

質問 今後、増え続けていく高齢者の方々に、安心、安全な暮らしを送っていただくため、現在における町の体制と取り組みはどういうことを行っているのか。

また、買い物に困っている高齢者の方の支援はどうなっているのか。

町や消防団は、災害時における避難について、1人世帯の高齢者、または高齢者同士の世帯の場所を把握しているのか。またどういつ



坂口 直人 議員

た連携をとっているのか。

答弁 高齢者の相談窓口として、高齢者福祉課内に地域包括支援センターを設置し、相談・支援に当たっている。地域包括支援センターでは、保健師や社会福祉士・ケアマネージャーの専門職が高齢者の総合相談・支援・介護予防・健康づくり・権利擁護などの業務に当たっている。

主な取り組みでは、買い物、掃除などの軽度家事支援事業である。これは、シルバー人材センターの登録者や社会福祉協議会の職員が高齢者の家事支援を行うものであり、県内で小豆島町だけの取

り組みとなっている。避難行動の要支援者の把握はできており、その名簿を作成している。ただし、消防機関等の避難支援関係者に情報提供する場合に、本人の同意を得なければならぬ。しかし、常に対象者が変わるため、なかなか同意が得られず、現時点では消防団等に情報が渡っていない状況にある。情報関係者で共有することは、災害時の迅速かつ的確な対応につながるの、可能な限り同意を取ったうえで情報を共有していきたい。



堀越地区における災害時の避難場所、経路について

町「最適な避難場所を自治会と協議していきたい」



中松 和彦 議員

質問 堀越地区における避難場所は堀越庵に指定されている。しかし、同庵はその立地条件が極めて悪く、また台風時に、より安全な場所へ避難するとしても、唯一の経路は波浪

に洗われ通行することはできない。新たな避難路の確保と避難施設の整備が待たれている。
また、この堀越には若い移住者の方が多く生活し活発に活動している。彼らの活動の拠点としても大いに利用できると思うが。

答弁 避難場所は最適な場所ではない。総務省関連の助成事業活用

「買い物難民問題」について

町「ふるさと納税制度等を利用し問題解決に知恵をしぼる」

質問 主に高齢者の方々が日々の買い物にまで困る事態となり、行政としての対応が期待されている。厳しい財政状況の中、原資をふるさと納税制度を活用して広く多くの方々から協力を得て、積極的に問題の解決を図れ

等を視野にいれつつ地元自治会と協議をしていきたい。



波浪で通行ができない堀越



答弁 「地方創生」という一環で同納税制度も大幅に改善されるようであり、都会へ出られた方々からの納税が拡充するよう知恵をしぼっていききたい。

町長の政治姿勢は

町「発言は控える」



鍋谷真由美 議員

質問 安倍政権が強行した集団的自衛権行使容認閣議決定は、憲法9条を破壊し、海外で戦争する国への道を開く暴挙だ。撤回を求めべきだ。

物価高に賃金が追いつかない中で、町民に大打撃となる消費税10%への増税はストップすべきでは。

答弁 憲法に関しての発言は控える。

消費税は国政で慎重に決定していただきました。

豪雨災害対策を

町「ハザードマップを全戸に配布」

質問 豪雨対策の現状と危険情報の周知徹底など取り組み強化の考えは。

答弁 県では砂防ダムの建設や急傾斜地対策工事等を、町では雨水ポンプ場の整備、河川や水路の整備等を実施している。ホームページ、各公民館で土砂災害の危険箇所を周知し、11月広報にチラシを折り込む。ハザードマップを全戸に配布する。

大型ゴミ収集有料化はやめよ

町「総量抑制施策として有料化を進める」

質問 大型ゴミ収集は、負担増、不法投棄の増える有料化はやめ、町民の意見も十分に聞き、収集方法の検討。

変更をすべきではないか。

答弁 ごみの排出抑制策として有料の訪問回収方式を導入する。地区衛生委員会の意見を聞く。不法投棄には、啓発、監視カメラの設置拡大、パトロールの強化などを行う。

ひとり親家庭医療費の窓口無料化を

町「来年8月実施に向け検討」

質問 負担の大きいひとり親家庭等医療費支給事業の窓口立て替え払いを窓口無料化に。

答弁 来年8月からの実施に向けて土庄町と調整を進めていく。





松下 智 議員

イノシシの侵入防止に効果があるとされているニーム樹の油を使用した、防護ネットの有効性の検証を

町「鳥獣被害は、農作物被害の段階でなく社会問題化している。防護ネットの有効性の検証は実施する」

質問 ①イノシシ対策として非常に有効であると言われていたニーム樹の油を使用した防護ネットの有効性を検証し、効果が高ければ積極的な活用を。

②本町の鳥獣捕獲等助成は、対象が農業関係者が中心である。イノシシ等の獣被害は、市街地にも発生している状況にあり、補助金交付の対象範囲を見直す必要性があると思うが。

答弁 ①鳥獣被害は農業被害の問題ではなく、社会全体の被害の段階に達している認識している。防護ネットの効果の検証は、提案のとおり検証して勉強する。

小豆島高校の跡地等の活用は

町「町政の最大課題の一つであると認識している。副町長2名体制にした理由の一つでもある」

質問 高校の跡地等の活用は、町づくりの重要な要因であり、大きな課題であると思われるが、現状と考える。

(以下、項目の質問は紙面の関係で省略)

答弁 高校跡地の利用は、町政の最大課題の一つと認識している。副町長2名体制の理由の一つでもあり、特命事項として対応している。

②町単独の補助金交付要綱の見直しは、指摘のあった方向で検討する。

選挙の投票時間は8時までやるのか

質問 全国、県下の状況はどうか、となりの土庄町は1時間短縮しているかどうか。午後7時から8時までの投票率は。1時間の費用は。期日前投票が定着していることから関係機関で検討しては。

③今後、町民の意見を聞く場の設置なども検討する。

④予算措置は必要に応じて、議会には常任委員会等で報告する。⑤学生の通学が定期バスの場合、積み残しは許されない。増枠便の対応等を考える協議を進める。



秋長 正幸 議員

新鳥獣保護法改正で農作物の被害はなくなるのか

町「有害鳥獣の問題に対し大きな視点で取り組みたい」

質問 今回の改正は、シカとイノシシを重点に保護から管理へとカジを切った。今のままではどうにもならないが現況のイノシシの頭数は把握しているのか、5年、10年先の推定頭数はどうか、今、減らさなければいつやるのか、法改正で今がいいチャンスでないか。

答弁 有害鳥獣の問題は、もはや農作物被害の問題でなく社会問題になってきているので、小豆島は大きな視点で取り組みたい。

イノシシの頭数は、多くの意見を集約すると、推測で千頭以上いるのではないか。5年、10年先の予測はしていないが、2頭のつがい

質問 今後、町民の意見を聞く場の設置なども検討する。

④予算措置は必要に応じて、議会には常任委員会等で報告する。⑤学生の通学が定期バスの場合、積み残しは許されない。増枠便の対応等を考える協議を進める。



有害鳥獣対策の勉強会 (オリーブ公園記念館)

質問 全国、県下の状況はどうか、となりの土庄町は1時間短縮しているかどうか。午後7時から8時までの投票率は。1時間の費用は。期日前投票が定着していることから関係機関で検討しては。

答弁 本町では33投票所のうち16か所で午後7時まで1時間短縮、全国では34・8%の投票所で繰り上げて行っている。香川県では19・7%、土庄町では昨年の参議院議員選挙から全て1時間繰り上げ、

7時から8時までの投票率は昨年の参議院選挙で2・3%、町議会選挙は1・3%であり、金額は約16万円の節約になる。

投票管理者、立会人も時間が長く負担も大きいので関係者の意見を聞き、選挙管理委員会でも検討する。

小豆島町 中学生議会

「町長・教育長に質問！」

10月10日、小豆島中学校の生徒14人による、中学生議会が開かれ、町政に対する質問を行いました。



やまもと

山本 みなみ 議員



高齢化が進行していく中で施設整備の見通しは。

(答弁) 新病院建設後の内海病院の後利用に特別養護老人ホームと町内の6区域に小規模多機能型施設を整備中です。

かわの

あかり

川野 明莉 議員



新病院の医師の人数や資金は足りる予定ですか。

(答弁) 島の2つの町立病院の医師を集約し、香川大学から協力を得ます。国から27億円の補助金を頂き、不足は有利な借入金を活用します。

あきなが

ひより

秋長 陽和 議員



少子化防止の対策として何か考えられていますか。

(答弁) 子育てしやすい環境づくりや奨学金返還免除制度により、若者が小豆島に帰りたと思える、働く場づくりに取り組んでいます。

こごう

はるき

古郷 悠希 議員



新高校への交通手段と小豆島・土庄高校の跡地利用は。

(答弁) 再編を進めているバスを活用していただきたい。高校跡地の利用は教育・運動施設などアイデアを提案していただきたい。

やぎ

まさき

八木 政紀 議員



子どもが遊べる場所の確保について。

(答弁) 公園を含め遊具が設置されている施設が28カ所ありますが、魅力を感じる遊び場が少ないと云う内容をもとに調査検討します。

ふじもと

なな

藤本 奈那 議員



他県とは違う独自のオリーブ商品の開発は。

(答弁) 葉を使った「オリーブ茶」、搾りかすを餌にした「オリーブ牛」、葉と枝を染料にした「オリーブ染」など、様々な商品が開発されています。

やぎ

まさと

八木 優聡 議員



オリーブ産業の背景について。

(答弁) 明治41年に始まったオリーブ栽培に全国で小豆島だけが成功し、平成15年「オリーブ振興特区」に認定され、オリーブ産業は拡大してきました。

ゆかわ

そうし

湯川 宗志 議員



オリーブをアピールするために実施していることは。

(答弁) 平成20年度から「小豆島オリーブ検定」・「香川県オリーブオイル品評会」を行い、国内のマラソン大会優勝者に「オリーブの冠」を贈っています。

むかい

ゆうすけ

向井 悠介 議員



2025年を目指している石の文化「世界遺産化」登録するメリットは。

(答弁) 地域の歴史文化を「世界遺産化」するプロセスにより、住民たちが自信と誇りを取り戻し、地域の絆を高めます。

はまさき

ともゆき

濱崎 智行 議員



2016年の芸術祭は島にどう影響があるのか。

(答弁) アートをきっかけに、島のコミュニティの再生と元気づくりを目指し、自然や産業、伝統行事を守り、外にアピールする取り組みに繋がる。

たけい

ななほ

武井 菜々歩 議員



2016年の芸術祭を実現する方策は。

(答弁) 島々と港でつながる「他地域との連携」、海の幸・山の幸を活用した「食文化の発信」、芸術をきっかけに世界と交流を広げる「国際化の推進」を行います。

ふじわら

あやな

藤原 亜耶奈 議員



土砂災害による被害を防ぐための工夫は。

(答弁) 砂防ダムで土砂災害を抑えることと、皆さんが防災訓練に参加するなど、普段から防災に対する関心を持っていただきたい。

ひらの

かくと

平野 岳 議員



南海地震への公共施設の耐震化は。

(答弁) 幼稚園・小学校・中学校は全て耐震改修を行っており、町の公共施設の耐震化率は78.8%です。

おおさわ

かつあき

大澤 功章 議員



最近の異常気象に対して、どのような災害対策を。

(答弁) 災害への情報提供を目的にした、防災行政無線の整備や土砂災害の危険な箇所を確認するハザードマップの作成を行っています。



14人の小豆島中学校議員の皆さん

「住みよい町 づくりを めざして」



吉田 敏行
(北条自治会総代)

小豆島町池田北条地区は池田湾に面した小さな小さな地区です。

世帯数は48で、高齢化が48パーセントと進んでいます。子どもは高校生以下が8名です。昭和36年、51年には大きな災害を受けました。台風や高潮で床上浸水もよくおきます。自治会の役員が中心になり声掛けをして安否の確認をしています。このような小さな地区ですが、昔より伝わる伝統行事があり、7月に稲荷祭り、8月には地区夏祭りとして地蔵盆をしています。継続していくことが大変

です。後継者の問題です。地区での人口減少に歯止めがききません、何か良い方法、方向性があればとよく考えます。

私達、地区住民は日常生活の中では、自治会、老人会の活動で人と人とのつながりを大事にして声を掛け合い色々な事（グランドゴルフ・カラオケ・空き缶拾い・地区清掃）を行って健康で生きがいのある取り組みをしています。これからも色々な事に挑戦して、より良い地区を目指し頑張りたいと思います。地区の人々と共に。



地域の人が集う夏祭り

それ以降、ファミリーコンサートに毎年出演し、瀬戸フィルハーモニー交響楽団の伴奏でいろいろな曲を歌ってきました。今年、第9回ファミリーコンサートに宮川彬良とあんさんがるベガをお迎えして、エンターテイメントショーを楽しむとともに、一緒に歌いとても思い出深い演奏会になりました。一昨年から小豆島合唱協会に参加し、

島の子どもたち合唱団は、小豆郡内の幼稚園・保育園から高校生までの児童・生徒たちで構成され、現在の部員は28名。遠くは豊島から通ってきてくれています。平成22年の第5回ファミリーコンサートにロシアから指揮者パーヴェル・コーガン氏が来島され映画「サウンド・オブ・ミュージック」から数曲を歌って合唱団は始まりました。



ファミリーコンサートの様子（平成26年5月3日）

まのちの **カ** 島の子どもたち 合唱団

2回の小豆島合唱祭に参加しています。

来年2月に第3回合唱祭、6月に10周年記念の第10回ファミリーコンサートに出演の予定です。一緒に歌う新しい団員を大募集中です。合唱を通してすてきな思い出を作りましょう！

【連絡先・草壁保育園
082-42201】

編集後記

今年には台風などで豪雨被害が多く広島県八木地区は74名もの犠牲者が出ました。山の土が小豆島と同じ「マサ土」と報道され、全国でもゲリラ豪雨被害、災害の怖さを改めて痛感しています。

8月末の知事選挙の結果、2回連続して小豆島町の投票率が県で1位、政治意識が高い地域として肝に銘じて活動します。

平成28年開院予定の病院統合委員会です。「今までは衣・食・住が大切だったが、今後の島は医・職・住が大切だ」と発言がありました。病院と医師の確保、働く職場こそ大切です。今を改善したい必死な姿勢が小豆島の住民を守ります。

森 崇 記



小豆島町健康づくりキャラクター「オーリー」(黒いプタ)

本紙に対するお問い合わせは

発行 小豆島町議会 編集 小豆島町議会広報編集特別委員会

〒761-4388 香川県小豆郡小豆島町池田2100-4 TEL (0879) 75-1100 FAX (0879) 75-0108
E-mail olive-gikai@town.shodoshima.lg.jp

議会だより 平成26年11月1日 10